

静岡県庁職員の皆様

静岡県対外関係補佐官をしています、東郷和彦でございます。縁あって、2011年4月よりこの仕事をさせていただいています。

いま、静岡県で信じがたいことが起きています。

さる6月17日たまたま、中日新聞の浜松・遠州版を見ていたら、「森岡の家解体手続きへ」という見出しが目飛び込んできました。

日本人が世界に最もほこる、何百年の歴史を持つ森と、明治以来の日本の文化の結晶だった家をもつ森岡の庭園を、浜松市の駐車場にするために、すべて壊すという記事です。

驚愕した私は、川勝知事に直に報告するとともに、7月上旬森岡の庭園を見に行きました。

天にそびえる松の木や、樹齢100年を超える銀杏の巨木や、明治の文化力を示す平野又十郎氏の屋敷は、静岡がこの地に残した宝物と感じました。それを所有者たる浜松市が自分で壊すとは！

世界は今「グローバリゼーション」と言う恐ろしい時代に入っています。

情報がネットを通じて瞬時に世界を駆けめぐります。他のどこにもない魅力のあるところに人が殺到します。

どの国も自分の魅力を発信するために必死になっています。

日本に来る外国人は、日本にしかないものを求めて飛んできます。

東京の外交団や外国人記者は、誰ひとり森岡の庭園の所有者たる浜松市が自分でそれを破壊することが理解できません。オリンピックに来る外国人が皆関心をもつ「浜北ツアー」が組めるのに、その一番の「売り」を自分で壊すとは！

80年代英国のオブザーバー誌の日本特派員をしていたピーター・マクギル氏は、change.orgに載った本件を知り「浜松市は歴史遺産を保存し、この文化破壊を即刻中止すべきだ」との声を寄せてきました。

しかも現地を再訪し、現場の声をうかがい、「それでは嫌だ」という強い声が庭園周辺の方々にあることを、胸につまされて伺いました。

周辺住民のほとんどの方が、実名署名をして、破壊反対を唱えておられます。

あの森は鎮守の森として、窒息感のある都市化生活の癒しとなってきました。

あの森は、浜北の地元植木職人にとっては、自分たちの仕事場の象徴であり、彼らは自発的管理を申し出ていました。

この地の歴史の深さを発掘している郷土史家の誇りでありました。

これこそ、日本の未来と子供たちに希望を残す、今の現場の声だと思いました。

しかもなお、「法律的に間違いはない。だから即刻壊す」という声が他ならぬ行政の責任者から発信され、裁判所は一旦これを止めることすらできません。私は、制度疲労を起こした今の日本のやっていることが、宝を残した先祖と未来の子供たちに涙を流させていると思います。マクギル氏のいうように、今、世界中に、日本ブランドの恥をさらしていると思います。今日ならまだ止められる、少なくとも、破壊の規模を縮小し、自然と文化との調和を何らかの形で残せると確信します。この問題の実施に責任と権限を持つ人たちに、賢明さと勇気を伏してお願いする次第です。

静岡県庁職員の皆様、私の本務は、県の対外関係についての政策の企画・立案・実行をアドバイスし、自ら参画することにあります。

しかし、国政についても、県政についても、その本体が、その時代の要請に合った目標に従って活気を持って動いていてこそ、対外関係を輝かすことが可能になります。

私は、県政についてほんとうに良いと考えることをお手伝いし、これだけはやってはならないと考えたことをはっきり申し上げるのが、静岡県民の皆様から報酬をいただき、県政に参画させていただいている私の責任と自認してきました。

本件は、静岡県政の根幹である「富国有徳ふじのくに」のありかたについて、最も本質的なかわりを持つものだと、確信しています。

皆様のご参考までに、これまで報道された新聞報道の一部を添付します。また、インターネットでは[change.org 森岡]で情報が入手できると思います。

静岡と日本の未来のために、一人の人間として、最良と思われる情報入手をされ、お考えになるよう、伏してお願い申し上げます。

静岡県対外関係補佐官 東郷和彦